

# 委員会 レポート

委員会活動として、  
閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、  
各委員会は第9回定例会において、  
次のとおり報告しました。

## 総務文教常任委員会 調査報告

### 指定管理者制度の活用について

民間企業やNPO法人等に公の施設の管理運営を委ねることができ、指定管理者制度について、芽室町を訪問し、指定管理者の事業評価の取り組みについて視察研修を行い、その後、本町の取組状況について担当課から説明を受けた。

芽室町では平成18年度から指定管理者制度を導入しており、現在、5施設で指定管理者による管理運営が行われている。制度の導入に伴い、評価委員会を組織して、指定管理者の事業評価、評価結果の町長報告、公表を毎年行っている。

事業評価は、指定管理者から毎年度提出される「事業報告書」と、町所管課が記載する「評年度分の事業状況」をもとに、実施されている。評価結果は、指定管理者へ通知され、改善指導などにつなげられ、次期の指定管理者の指定に際しても重要な資料となっており、制度本来の目的である住民サービスの向上につながる取り組みとなっている。



指定管理者の事業評価の取り組みについて芽室町を視察

本町での指定管理者制度の導入は、平成19年4月からアイスアリーナと御影パークゴルフ場で指定管理が開始され、その後、本年4

農業経営の維持には人材の確保は不可欠であり、労働力をいかに確保していくのかは喫緊の課題である。

将来農業に関わって



農村地域防災減災事業の実施が予定されている屈足ダムも視察

## 産業厚生常任委員会 調査報告

### ①農業基盤整備事業について

担当課職員から説明を受けた後に現地視察を行った。

農業基盤整備促進事業の目的は、湿地が著しい農地に対して暗渠排水を整備し、排水不良の解消を図ることで、簡易な整備を実施して

### ②農業コントラクターの現状と展望について

いる。事業の計画期間は平成27年度までとなっているが、要望が多い現状から、平成28年度以降においても事業を継続する予定である。

視察を行った暗渠整備事業では過去の手法と比較すると格段に製品の品質と工事技術が進歩しており、整備後

### ②農業コントラクターの現状と展望について

の成果が期待される。今後事業が継続されることから、営農者がより農業に励むことができる農地整備を進めていただきたい。

受委託面積が年々増加し、現在は本町の農業にとっては無くてはならない組織となっている清水町サポートセンターの事業について調査を実施した。サポートセンターや

月から町体育館など7つの社会体育施設で指定管理者制度が導入されている。

事業評価については、今後、どのような評価がいいのか検討するとしており、各委員からは、管理運営を任せるだけでなく、利用者の声を反映させ、更に住民サービスの向上と経費の節減を図るためにも、事業評価は必ず実施する必要があるとの意見が出された。

生計を立てていくことを望む若者たちが、世帯を持ったあとも住んでもつる環境づくりは、行政が取り組むテーマでもあり、家族を養うだけの賃金体制の確立も必要になってくる。

基幹産業である農業を関係団体が協力し合いながら支えていくことがこれからは必要であることから、町はその中心となって積極的に活動をしていくことが求められる。